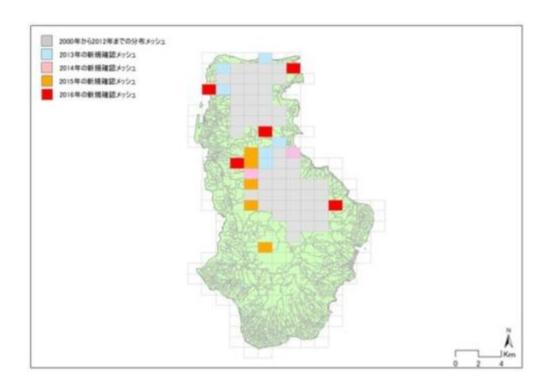
1、猫によるクロウサギ死体の報告ゼロ生息域東京ドーム210個分拡大 徳之島

最新データより

どうぶつ基金が主催している「徳之島ごとさくらねこ TNR」が始まった 2014 年、環境省徳之島自然保護官事務所の調べでは、イヌまたはネコにより捕食されたと思われるアマミノクロウサギの死体は 9 羽報告されています。「徳之島ごとさくらねこ TNR」開始(2014.11)以降、2015 年は 1 羽に激減、2 0 1 6 年はゼロに、2 0 1 7 年 9 月 1 5 日現在もゼロが継続されています。また、2 0 1 5 年、新規に5つのエリアで、アマミノクロウサギが確認されましたが 2 0 1 6 年にはさらに新規エリアが5つ広がりました。

(2014 から 1 6%拡大東京ドーム約 2 1 0 個分)

アマミノクロウサギ 徳之島分布メッシュ 資料提供:環境省徳之島自然保護官事務所



200-2014年 62キロ平米

2015年 67キロ平米 (2014から8%拡大)

2016年 72キロ平米 (2014から16%拡大 東京ドーム約210個分拡大)

徳之島	2014	2015	2016	2017
交通事故	1	0	12	3
ネコ・イヌ	9	1	0	0
ハブ・その他	1	0	1	0
原因不明	8	8	8	3
合計	19	9	21	6

2017年9月1日現在までの数字 資料提供:環境省徳之島自然保護官事務所

猫によるアマミノクロウサギの捕食による死体発見数がピークなった2014年(死体発見9羽)

徳之島ごとさくらねこ TNR プロジェクトはスタートしました。そして、約1年(H26.11.15-H28.1.27)で 2,136 頭の TNR を行いました。H28年度 徳之島3町は地方創生加速化交付金(総額3153万8000円)の対策費を確保し600匹以上の捕獲・施術を行いました。また環境省徳之島自然保護官事務所は2016年3月までにクロウサギ生息域の猫捕獲(計108匹)を行いました。(奄美新聞2016.05.25)

事業開始時に推定された徳之島に生息する猫の数

推定約3000頭 (※猫の推定生息数は徳之島3町による地方創生加速化交付金申請書より抜粋)

不妊手術を行った猫の数

徳之島ごとさくらねこ TNR 2136頭 (H26.11.15-H28.1.27 飼い猫 516頭 飼い主不明猫 1620頭)

地方創生加速化交付金 9 4 1 頭 (H28.4.1-H29.3.31 飼い猫 73 頭 飼い主不明猫 868 頭)

環境省 108頭 (H28.3.31まで クロウサギ生息域の猫)

合計 3185頭

※徳之島では3町の2017年度予算でTNRが継続されている。

世界自然遺産登録へ向けて喫緊の課題である、ネコによるアマミノクロウサギ等希少

動物の捕食を防止する取り組み。

2、予算

各町負担金より 6,300 千円

3、不妊手術 (TNR) の予定数

300 頭

4、事業主体

徳之島三町ネコ対策協議会

5、2017年度当初からこれまでに行った猫の不妊手術の頭数

飼い猫 2頭

飼い主不明猫 19頭 ※7月現在

その結果、猫によるアマミノクロウサギの捕食被害の増加を止めることができただけでなく、9 羽もあった被害がゼロになったこと、生息域が10キロ平米(東京ドーム210個分)も拡大したことは、大きな成果と言えます。

希少動物の保護に TNR は役に立たないという説もあるなかで、今回のプロジェクトが成果を出したことによって、TNR で成果が出なかったと結論づけようとしているケースは、TNR が悪かったのではなく、TNR の実施方法に問題がなかったのか再検討する必要があると考えられます。今回の成功の一番の要因は不妊手術のスピードです。推定3000頭の猫の手術が、どうぶつ基金、地元行政、環境省の3者で2年ほどの間に行いました。仮に、徳之島を1年間200頭のペースでTNRを実施していたとしたら、2,136頭実施するのに、10年以上かかってしまいます。それでは、猫の繁殖やアマミノクロウサギの減少ペースにTNR が追い付かず、問題は永久に解決しなかったでしょう。

どうぶつ基金が推進する さくらねこ **TNR** とは

即行

スグやる

猫は一度の出産で5~7匹の子猫を産み1年に3回出産することができます。 生まれた子猫は6か月たつと妊娠が可能な年齢になり孫猫を産みます。 TNRをゆっくり行っていては、猫の繁殖スピードに追い付けません。



全部やる

90%の猫にTNRをしても、残った猫からあっというまに増えてしまします。 だいたいやって満足するのではなく、100%の猫にTNRを行うことが大切です。



続ける

100%を目指してTNRを行っても、捕獲もれや新参者が見つかります。 その都度、未手術の猫を見つけ、素早く対応していく管理体制を維持できれば、 殺処分ゼロ、苦情ゼロは実現可能です。

上記の3点の一つでも欠けてしまえば、TNR は成功しません。

逆に言えば、この3点さえ守ればTNRの成功率は大いに高まると言えます。

今回の徳之島ごとさくらねこ TNR プロジェクトが成功したことによって、希少動物の保護も、殺処分ではなく、徹底した TNR と、希少種と生息を共にする猫の保護を実施することによって、<mark>殺さずに解決できるという徳之島モデルを確立</mark>できました。

2、他の「さくらねこの島」でも猫問題解決率100%でした。

どうぶつ基金では 2014 年 12 月から 2016 年 12 月までの 2 年、徳之島以外でも「島ごとさくらねこ TNR」(※島に生息するほぼすべての猫(95%~100%)に不妊手術)をおこないました。今回、事後調査を行った結果、下記の通りとなりました。

捨て猫がゼロであることから猫数は減少していくものと思われます。また人と猫の関係は手術後すべての島で良くなっており、猫問題は解決し成功しています。

「島ごとさくらねこ TNR」を行った島

事後調査(2017年9月実施)結果

県名	島名	手術年月	手術前の猫数	現在の猫数	未手術の猫	捨て猫
鹿児島	竹島	2015年8月	120	120	4	0
香川	男木島	2016年6月	144	120	1	0
香川	志々島	2016年12月	69	73	0	0
福岡	馬島	2014年12月	80	60	0	0

※竹島 4頭の未手術猫は、事業後新たに発見された猫 (近日中に手術予定)

※男木島1頭の未手術猫は、飼い主の手術拒否によるもの

※志々島の猫の増加4頭は、事業後新たに発見された猫(地元で手術済み)

一斉手術後を捨て猫が

回答	票数	%	
あった	0	0%	
なかった	4	100%	

TNRを実施した地域の猫に関して当てはまるもの全てにチェックをつけてください 複数回答可

4

回答	票数	%	
性格が穏やかになった	4	100%	
さかり声が減った・ほぼ無くなった	4	100%	
尿臭が激減した	4	100%	
健康状態がよくなった	4	100%	
猫の数が減ってきた	3	75%	

住民と猫の関係は 4

回答	票数	%	
良くなった	4	100%	
変わらない	0	0%	
悪くなった	0	0%	

TNRを実施した地域住民との関わりの変化について当てはまるもの全てにチェックをしてください。複数回答可

Δ

回答	票数	%	
住民の理解が得られた	4	100%	
苦情が減った	4	100%	
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	2	50%	
協力してくれるひとが増えた(できた)	2	50%	
地域の人に感謝された	4	100%	
猫を可愛がってくれる人がふえた	2	50%	